

スズキ株式会社 アニュアルレポート 2013

(第147期：2012年4月1日 - 2013年3月31日)
日本語版(抜粋)

本PDFファイルは投資家の皆様の便宜のため、英文版の「ANNUAL REPORT 2013」の会社概況説明ページを和訳したものです。
財務諸表につきましては、英文版の「ANNUAL REPORT 2013」の20ページ
“FINANCIAL SECTION”以降をご参照くださいますようお願い致します。



トップメッセージ

アニュアルレポート2013をお手許にお届けするにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当期の経営成績

当期の当社グループを取り巻く経営環境は、欧州の景気低迷やアジアでも景気減速が懸念される状況にありますが、米国景気の復調の兆しや国内においては、超円高の緩和、経済対策の効果などを背景に、景気回復への期待が高まりつつあります。

このような状況下、当期の国内売上高は1兆409億円と前期に比べ541億円(5.5%)増加し、初めて1兆円を超えました。一方、海外売上高はアジアの四輪車販売の増加などにより円高による為替換算や欧州の景気低迷の影響を吸収し1兆5,374億円と前期に比べ120億円(0.8%)増加しました。この結果、連結売上高全体としては2兆5,783億円と前期に比べて661億円(2.6%)の増加となりました。

連結利益の面では、営業利益は為替影響や欧州での売上減少などによる減益要因を、日本、アジアでの四輪車販売の増加や原価低減などによる増益要因で吸収し、1,446億円と前期に比べ253億円(21.2%)増加、経常利益は1,556億円と前期に比べ250億円(19.2%)増加しました。当期純利益は、四輪車事業の米国撤退に伴い関係会社整理損失が生じましたが、これを吸収し804億円と前期に比べ265億円(49.2%)増加し、過去最高となりました。

なお、期末配当金につきましては、1株につき10円(前年期末配当金8円)とさせていただきます。この結果、年間配当金は18円となり、前期に比べ3円の増配となります。

対処すべき課題

当社グループは、厳しい経営環境の中、「知恵を出し、人一倍の努力と行動で現状を打破しよう」を基本方針として、全社一丸となって以下の課題に取り組んでまいります。

・商品づくり

「Create a Wow! ~お客様の期待を超える価値を創り出そう~」をスズキのビジョンとして掲げ商品開発に取り組んでいます。今後も「走る喜び」、「使う楽しみ」、「持つ幸せ」を満足させる商品を開発してまいります。

・研究開発力の強化

環境技術、低燃費化技術、軽量化技術、安全技術など研究開発力の強化を図ってまいります。また、エンジン・パワートレイン・プラットフォームの統合化による開発の効率化、コストダウンなど低コストの車づくりを進めてまいります。

・販売網の拡充・強化

各地域・各製品での競争激化に対しては、国内・海外ともに販売網の拡充・強化と市場に密着した営業活動を展開してまいります。

・生産力の強化

「地産地消」の考えに基づき、引き続き海外生産の強化に努めてまいります。特にアジアでは自動車需要が増加しており、内作化率の向上、グローバル購買の拡充、現地での生産能力の強化に努めてまいります。あわせて、FTA等地域間経済連携の進展や為替動向に基づき、日本におけるものづくりと海外との分担の最適化に取り組んでまいります。

・二輪車事業の再建

二輪車事業につきましては、企画、技術、営業が一体となり、市場要望にあった商品を一層充実させ、二輪車業界の中で存在感ある地位を取り返すべく事業活動を展開してまいります。特に、今後の更なる成長が望めるアジア地域を中心とした小型二輪車事業を強化するとともに、アセアン標準車の横展開、エンジン数の削減・統合化によるコスト削減、開発の効率化を進めてまいります。また同時に、中・大型車につきましても、さらに商品力の強化をはかってまいります。

・地球環境問題への取組み

環境問題については、当社グループは国内の軽自動車をはじめ、インドやアジアなどで多くの燃費の優れた小型車を提供してまいりました。これら小型車の普及こそ環境問題に貢献できるものと考えております。「スズキグリーン テクノロジー」による次世代環境技術の推進に加え、今回策定した「スズキ環境計画 2015」、「スズキ生物多様性ガイドライン」に基づき、地球環境問題に取り組んでまいります。

・災害対策

当社グループは従来より東海・東南海地震を想定した様々な予防策を講じてきましたが、東日本大震災の発生を受け、津波被害が想定される静岡県磐田市竜洋地区拠点の移転のために浜松市北部の都田地区に用地を確保、相良工場に集中していた軽自動車用エンジンの生産を湖西工場へ分散、四輪車開発拠点である相良テストコースのリスク分散も兼ねてインドの研究施設の拡充を進めるなど、海外も含めた生産・研究拠点の分散を実施しました。引き続き、災害に対する対応力を高めてまいります。

当社グループは、「消費者の立場になって価値ある製品を作ろう」を社是の第一に掲げ、創業以来「価値ある製品」をものづくりの根底においてきました。この理念実現に向けて、「Create a Wow! ~ お客様の期待を超える価値を創り出そう ~」をスズキのビジョンとして掲げ、取り組んでまいります。

また、「小さなクルマ、大きな未来。」をスローガンに、お客様の求める「小さなクルマづくり」、「地球環境にやさしい製品づくり」に邁進するとともに、生産をはじめ組織・設備・部品・環境などあらゆる面で「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」を徹底し、ムダのない効率的な健全経営に取り組んでまいります。

役員及び従業員は、法令、社会規範、社内規則等を遵守し、公正かつ誠実に行動してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長

鈴木 修

代表取締役副社長

田村 実

本田 治

鈴木 俊宏

原山 保人

四輪事業

スズキの世界生産と世界販売台数

2012年度の四輪海外生産台数は1,834千台、前年比102.9%と、前年を上回りました。日本を含めた世界生産でも2,878千台、前年比102.7%と増加しました。また四輪海外販売台数は、1,989千台、前年比101.2%と増加、日本を含めた世界販売台数も2,660千台、前年比103.9%と増加しました。

事業別業績

四輪車事業は、国内四輪車事業、インド、アセアンでの収益向上などにより、営業利益は1,506億円と前期に比べ361億円増加し、過去最高となりました。

国内市場

1. 全体市場の概況

2012年度の国内四輪車総販売は、5,210千台（前年比110%）と、大きく前年を上回りました。上期まで実施された「エコカー補助金」による需要喚起策が奏功して、販売を押し上げたことにより、5年ぶりに500万台を回復しました。

中でも、軽自動車は1,973千台（前年比117%）と大幅に伸長し、過去2番目の販売となりました。また、登録車も3,238千台（前年比106%）と、前年を上回る販売となりました。

2. スズキの販売状況

スズキの2012年度国内総販売台数は、672千台（前年比113%）と、大幅に前年を上回りました。前半の「エコカー補助金」による販売への追い風と、後半の新型車投入に伴う拡販が、増加の主な要因でした。

軽自動車は、586千台（前年比114%）と前年を大幅に上回りました。後半には「ワゴンR」と「スペーシア」の新型2機種投入が奏功し、販売増加の一役を担いました。

登録車は、85千台（前年比106%）と3年連続で前年を上回りました。最量販車のスイフトが大幅な増加となり、スズキ登録車の牽引役となりました。

3 . 2012 年度のトピック

- ・ 2012 年 9 月、国内自動車メーカーとしては初めて、軽四輪車国内累計販売 2,000 万台を達成しました。1955 年 10 月に「スズライト」を発売開始して以来、56 年 11 ヶ月での達成となりました。
- ・ 2012 年 9 月に、軽乗用車「新型ワゴン R」を発売しました。5 代目となる新型車には、「ENE - CHARGE」などの低燃費化技術や軽量化技術を結集し、トップクラスの低燃費を実現しました。なお、「新型ワゴン R」に初めて採用した次世代環境技術「SUZUKI GREEN Technology」は、「2013 年次 RJC テクノロジーオブザイヤー」を受賞しました。
- ・ 2013 年 3 月に、ハイトワゴンタイプの新型軽乗用車「スペーシア」を発売しました。「SUZUKI GREEN Technology」を採用し、広さと低燃費、安全・動力性能と使い勝手を高次元で融合したことで、発売以来好調な販売となっています。
- ・ 2012 年 6 月に、小型乗用車「ソリオ」に、斬新で存在感あふれるデザインとした「ソリオバンディット」を派生車として追加し、発売しました。

海外市場

1 . 全体市場の概況

2012 年度のスズキを取り巻く海外四輪車市場は、インド市場では燃料価格の高騰やローン金利の高止まりによる購買意欲の低迷により、全体（乗用車 + MUV）では 2,686 千台（前年比 102.2%）と小幅の伸びに留まりました。中国市場は 19,480 千台（前年比 106%）と小幅の伸びに留まりました。アセアン主要諸国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアの 5 カ国）においては 3,643 千台（前年比 140%）と大幅に前年を上回りました。欧州市場（EU + EFTA）は欧州金融危機の影響などにより 12,196 千台（前年比 92%）と前年を下回りました。

2 . スズキの販売状況

2012 年度のスズキの海外四輪販売台数は、1,989 千台（前年比 101.2%）と前年を上回りました。スズキの主な販売国において、インドでは相次いで投入した新型車の効果により 1,051 千台（前年比 104.4%）と前年を上回りました。中国市場では 253 千台（前年比 85.4%）と前年を下回りました。アセアン主要諸国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアの 5 カ国）については、インドネシアで新型 3 列シート車の「エルティガ」やタイで「スイフト」の好調な販売により、アセアン主要諸国全体で 188 千台（前年比 156%）と大幅に前年を上回りました。パキстанは 86 千台（前年比 87%）、欧州（EU + EFTA）は 149 千台（前年比 88%）と前年割れとなりました。

3 . 2012 年度のトピック

- ・ 2013 年 1 月に世界戦略車としての「スイフト」の世界累計販売台数が 300 万台を達成し、その内、海外販売については 2005 年の欧州での発売開始以来、120 以上の国と地域で累計約 261 万台を販売。
- ・ 2012 年 4 月にインドおよびインドネシアにて新型 3 列シート車「エルティガ」を発売開始。また 2013 年 3 月にスズキ初となる C セグメントクロスオーバー車「新型 SX4」をジュネーブショーにて発表。
- ・ ミャンマー政府よりスズキ 100%出資の四輪車生産販売子会社の設立の認可を取得し、2013 年 2 月に設立。(同年 5 月に工場稼働開始)
- ・ インドのマルチ・スズキ社の国内販売が 3 年度連続で 100 万台を超え、売上高が過去最高を記録。
- ・ 2012 年 11 月に、米国子会社が四輪車の販売事業から撤退および二輪車・ATV・船外機事業への集約を発表。(2013 年 4 月 1 日に新会社を設立)

二輪事業

スズキの世界生産台数と世界販売台数

2012年度の二輪海外生産台数(ATV含む)は2,100千台、前年比87.5%と前年を下回りました。日本を含めた世界生産台数でも2,269千台、前年比88.1%と減少しました。また、二輪海外販売台数(ATV含む)は、2,236千台、前年比89.1%、日本を含めた世界販売台数も2,312千台、前年比89.3%と減少しました。

事業別業績

二輪車事業は、欧州及びアジアでの販売減少により、119億円の営業損失となりました。損益的には厳しい状況が続きますが、中期的視点にたつて、研究開発、インド、アセアン等での設備投資を継続してまいります。

国内市場

1. 全体市場の概況

2012年度における国内4メーカーの出荷台数は、125cm³以下の原付が落ち込んだものの、126cm³以上の大型車が好調に推移したことから、総台数は402千台(前年比99%)と前年並となりました。原付車については、335千台(前年比95%)と前年を下回りました。大型車については、68千台(前年比123%)と前年を上回りました。

2. スズキの販売状況

2012年度におけるスズキの出荷台数は、大型車の販売は伸びましたが、原付車の販売が落ち込んだことにより、総台数は72.6千台(前年比97%)と前年を下回りました。

内訳を見ると、原付車については、50cm³以下の原付一種が46.5千台(前年比91%)、51~125cm³の原付二種が16.5千台(前年比100%)となり、原付車合計では63.0千台(前年比93%)と前年を下回りました。大型車については、126~250cm³の軽二輪は6.8千台(前年比145%)、251cm³以上の小型二輪は2.7千台(前年比101%)となり、大型車合計では、9.6千台(前年比129%)と前年を上回りました。

3 . 2012 年度のトピック

- ・ 原付車の需要は減少傾向が続いていますが、大型車の需要は増加傾向にあります。当社においては2012年7月に新機種として中国製の「GSR250」を国内販売しました。若年層の新規購入者が増加し、軽二輪の販売を大きく伸ばしました。
- ・ 2012年12月に新機種として「V-Strom650ABS」を、2013年1月にモデルチェンジ機種として「スカイウェイブ 650LX」を、同年3月に新機種として「GSR750」を発売し、収益性の高い大型車の拡販に努めています。

海外市場

1 . 全体市場の概況

2012 年度のスズキを取り巻く海外二輪車市場は、欧州市場では金融不安による経済低迷の影響により 824 千台（前年比 86%）と落ち込みましたが、北米市場（ATV を含む）は 760 千台（前年比 98%）となり、小幅な減少に留まりました。

アジアにおいては、アセアン主要 6 カ国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシア、カンボジア）合計で 13,810 千台（前年比 94%）、中国市場が 12,389 千台（前年比 91%）と前年を下回りましたが、インド市場は 13,797 千台（前年比 103%）と前年を上回りました。

2 . スズキの販売状況

2012 年度のスズキの海外二輪車販売台数は、2,236 千台（前年比 89%）と前年を下回りました。スズキの主な販売国 / 地域において、欧州では 47 千台（前年比 71%）、北米においても 44 千台（前年比 91%）と前年を下回りました。

アセアン主要 6 カ国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシア、カンボジア）合計では、ローン頭金下限規制が施行されたインドネシアでの販売減少などにより、651 千台（前年比 85%）と前年を下回りました。中国においても 802 千台（前年比 88%）と前年を下回りましたが、インドでは、スクーターを中心に販売を伸ばし、414 千台（前年比 122%）と前年を上回りました。

3 . 2012 年度のトピック

- ・ 2012年9月、Suzuki Endurance Racing Teamが耐久世界選手権で3年連続、12回目の年間チャンピオンを獲得。又、「GSX-Rシリーズ」が累計生産台数100万台を達成。
- ・ 2012年10月、欧米向け新モデル「Hayabusa」「INTRUDER C1500T」「BURGMAN 650/Executive」を発表。又、インドネシアで新スクーター「Let ' s」を発表。
- ・ 2012年11月、フィリピンで二輪車新工場の開所式を実施。
- ・ 2013年1月、スポーツアンダーボーン「FU150」が累計生産台数100万台を達成。

特機等事業**事業別業績**

特機等事業は、船外機の販売増により売上高は前期を上回りましたが、営業利益は減益となりました。

2012 年度の当社の船外機出荷は、国内については、台数・金額共に前年並み(台数：103%、金額：102%)となりました。

輸出については、小型モデルがロシアを中心とした新興国市場で伸びたことにより、台数は増加(前年比 109%)しましたが、ヨーロッパ経済の落ち込みにより、大型モデルの需要が減少した為、金額では前年割れ(前年比 96%)となりました。

現在のスズキ 4 ストローク船外機は、最小出力モデル「DF2」(1.49kW、2 馬力)から最大出力モデルの「DF300」(220.7kW、300 馬力)までのラインナップとなっています。

2012 年ロンドン・オリンピック及びパラリンピックでは、当社が船外機公式サプライヤーに選ばれ、当社船外機が水面競技のサポート艇に搭載され、加えてエリザベス女王陛下即位 60 周年記念行事の水上大パレードでも、55 台のスズキ船外機が活躍しました。

環境

スズキは、四輪車製品・二輪車製品・特機製品等の総合メーカーとして、製品の開発から廃棄に至るまでの全ての段階で環境に配慮した取組みを行っています。

『製品開発』の分野では、燃費の向上、排出ガスの低減、クリーンエネルギー自動車の開発、騒音の低減など、『生産活動』の分野では、環境リスクの低減、省エネルギー、代替エネルギーの推進などに取り組んでいます。『物流』の分野では、輸送の効率化・省エネルギー化、3Rの推進等の取組み、『市場』の分野では、販売店の環境管理の推進、使用済み製品の適正処理等に取り組んでいます。

製品関連以外の取組みとして、オフィスの省エネルギーの推進・グリーン購入の促進、従業員への環境教育、地域への社会貢献活動の推進等の環境活動を推進しています。

2012年度のトピック

- ・ 「スズキ環境・社会レポート 2012」を発行しました。スズキは 1999 年度から毎年度発行しており、スズキの環境への取組みを網羅して掲載しています。
- ・ 2012 年 9 月に、スズキ株式会社は、ものづくりのために開発・投入する環境技術、低燃費化技術、軽量化技術などの新技術を「スズキグリーン テクノロジー」と総称し、これからの商品開発に投入していくことを発表しました。
- ・ 2013 年 3 月に、スズキ株式会社は、軽乗用車「アルト エコ」に低燃費化技術を採用し、2WD ガソリン車 No.1 の低燃費 33.0km/L を達成し、発売しました。
JC08 モード走行燃費（国土交通省審査値）に基づく。ハイブリッド車を除く。（2013 年 6 月現在、スズキ調べ）
- ・ 2013 年 3 月に、スズキ株式会社は、2002 年に策定した「スズキ地球環境憲章」に基づき、美しい地球と豊かな社会を次の世代に引継いでいくために、2012 年度から 2015 年度までの環境保全の取組み「スズキ環境計画 2015」を、またスズキの事業活動等において「生物多様性」の保全と持続可能な利用に取り組む指針として、「スズキ生物多様性ガイドライン」をそれぞれ策定しました。
- ・ 2013 年 3 月に、スズキ株式会社は、『スズキ地球環境憲章』の実現に向け、スズキの環境方針、次世代環境技術や環境活動などの取組みを明確にし、社内外に広くアピールする環境ブランド「SUZUKI GREEN（スズキグリーン）」を導入しました。

他メーカーとの事業協力関係について

スズキは、国内外の自動車メーカーとの事業協力関係を進めています。

日産自動車とは、2002年以降、国内外で相互に車両をOEM供給しています。マツダには、1989年以降、軽自動車をOEM供給しており、また2013年4月より、インドネシアでも車両のOEM供給を開始しました。三菱自動車には、2011年以降、国内で車両をOEM供給しています。

海外メーカーについては、フィアット(2005年～)やオペル(2000年～)とは欧州市場で車両OEM供給などの協力を進めています。またフィアット(2005年～)やルノー(2003年～)からディーゼルエンジンを受給し、当社車両に搭載しています。フィアットからはディーゼルエンジンの技術を導入し、2006年以降、インドで生産しています。

今後も、他メーカーとの事業協力に取り組むことで、スズキの経営資源の有効活用と、売上及び利益の増加を図りたいと考えています。

なお、2009年12月に包括契約を締結し、両社の協力関係を発展させるために資本関係まで結んだVWとの提携は、結果として何らのプロジェクトも成立しないまま、包括契約を解除せざるを得ませんでした。現在、スズキ株式の返還を求めて、国際仲裁の場で係争中です。

トピックス

(2012年4月) インドネシアで3列シートの小型車「エルティガ」を発売

当社のインドネシア子会社スズキ・インドモビル・モーター社が、3列シートの小型車「エルティガ」の販売を開始しました。当社は、「エルティガ」を同国の乗用車市場の約6割を占めるMPV(多目的車)カテゴリーに投入することで、より多くのお客様のニーズに応えていきます。「エルティガ」は、充実した装備でありながらリーズナブルな価格、快適な室内空間、走行性能、優れた燃費が評価され、2013年3月にインドネシアの自動車専門誌で最も権威ある“Otomotif Award”の「カーオブザイヤー2013」を獲得しました。

(5月) 低燃費の新型船外機「DF250AP」を発表

当社のフラッグシップ船外機「DF300AP」と共通の技術やデザインを採用した、新型4ストローク大型船外機「DF250AP」を発表しました。リーンバーン(希薄燃焼)システムの採用により低燃費を実現し、豪州、欧州、北米、日本より順次発売し、マリレジャーのほか、業務用など幅広い用途で活躍しています。

(6月) マルチ・スズキ社がグジャラート州と土地購入で基本合意

インドの子会社マルチ・スズキ・インド社と、インド西部のグジャラート州との間で、四輪車新工場用の土地約280万㎡(700エーカー)の取得について基本合意しました。インド自動車市場の拡大に伴い、同社の生産能力を増強するという長期的な経営戦略に沿ったもので、新しい工場は同州の一大輸出港であるムンドラ港から約300kmの距離にあり、生産・輸出拠点として適した位置にあります。グジャラート州に建設する工場の生産能力は初年度25万台の見込みで、市場の状況を見ながら、建設を開始し稼動する予定です。

(6月) 社外取締役、社外監査役を選任

2012年6月28日開催の定時株主総会の承認を得て、2名の社外取締役を新たに選任し、監査役にも3名の社外監査役を選任しました。

経営環境が厳しくなる中、経営体制の強化を図るため、社外の有為の方々の知識・経験を活かしていただくために導入を決めたものです。当社の経営に有益な指導・助言をしていただいております。

（7月）新型ロードスポーツバイク「GSR250」を発売

精悍で存在感のあるスタイリングと扱いやすいエンジン特性を特長とする新型ロードスポーツバイク「GSR250」を発売。バイクに初めてお乗りになるお客様でも扱いやすく、街乗りからツーリングまで幅広くお使いいただくことを想定し、乗りやすさとお求めやすい価格にこだわりました。中国の合弁会社、常州豪爵鈴木摩托車有限公司で製造し、中国をはじめ日本、欧州、中南米でも販売しています。

（9月）新型「ワゴンR」発売。次世代環境技術「スズキグリーン テクノロジー」を採用

低燃費化技術、軽量化技術をはじめとした次世代環境技術を採用した新型「ワゴンR」を発売しました。「軽ワゴン低燃費No.1 新世代エコカー」を開発コンセプトに、環境に配慮しながら、さらに便利で楽しいクルマをめざしました。

また、新型「ワゴンR」より採用した、当社がものづくりのために開発・投入する環境技術、低燃費化技術、軽量化技術などの新技術を「スズキグリーン テクノロジー」と総称し、これらの技術を今後開発する商品に投入していきます。

軽ワゴン = 全高1,550mm以上の軽自動車。JC08モード走行燃費（国土交通省審査値）に基づく。2012年9月現在、スズキ調べ。

（9月）軽四輪車の国内累計販売台数が2,000万台を達成

当社の国内軽四輪車の累計販売台数が、自動車メーカーとして初めて2,000万台を達成しました。1955年10月に軽四輪車「スズライト」を発売して以来、国内軽四輪車市場において常に新しい市場を形成するとともに、軽四輪車の発展と共に歩み続け、お客様のご支援のおかげで56年11カ月で達成しました。

今後も独創的、且つお客様にとって価値ある軽自動車を作り、ご提供し続けてまいります。

（11月）米国の四輪事業撤退を決定

ハワイ州を除く米国において四輪車、二輪車・ATV（バギー）、船外機、関連する部品・用品の販売を行う米国子会社アメリカンスズキモーター社が、2012年11月5日（現地時間）に米国連邦破産法第11章に基づく更生手続を申請しました。この結果当社は、米国本土における四輪車販売事業から撤退することとなりました。

米国の事業は、2013年4月1日より新会社スズキモーターオブアメリカ社が継続し、今後も多くの需要が見込める二輪車・ATV、船外機事業に特化して拡販を図ります。なお、四輪車については部品・サービス供給事業を継続して行います。

(11月)スズキの次世代環境技術、「スズキグリーン テクノロジー」が、2013年次 RJC テクノロジー オブ ザ イヤーを受賞

当社の次世代環境技術「スズキグリーン テクノロジー」が、日本自動車研究者・ジャーナリスト会議（RJC）が選出する「2013年次 RJC テクノロジー オブ ザ イヤー」を軽自動車ですべて初めて受賞しました。

9月に発売した「新型ワゴン R」から採用の「エネチャージ」、「新アイドルリングストップシステム」、「エコクール」をはじめ、新軽量衝撃吸収ボディー〔TECT〕、パワートレインの高効率化、走行抵抗の低減といった様々な次世代環境技術が高く評価されました。

(12月)パリポートショーで新型船外機「DF60AV」を発表

フランス・パリで開催されたパリポートショーで、新型船外機「DF60AV」を発表しました。総排気量 941cm³、最高出力 44.1kW（60PS）の軽量・コンパクトな 4 ストローク船外機「DF60A」をベースにしたハイスラスト（高推進力）仕様の船外機で、大きなサイズのプロペラと最適な減速比のギヤを装着し、中低速での扱いやすさを向上させました。

(2013年1月)2012年のインド新車販売が2年ぶりに100万台を突破

2012年のインド子会社のマルチ・スズキ・インディア社のインド国内販売実績（卸販売）が2年ぶりに100万台を突破し、前年比 6.6%増の 1,063,599 台となりました。同社では7月に暴動事件が発生しましたが、8月より操業を再開し、10月末には前年並みの生産となりました。その後、新型車「エルティガ」の好調、「スイフト ディザイア」等のディーゼルエンジン搭載車の販売増、新型「アルト 800」の投入により前年実績を上回ることができました。当社はこれからもクルマ作りを通しインドの経済発展に協力してまいります。

(1月)大型スクーター、新型「スカイウェイブ 650LX」を発売

快適な走りとお質な装備で日本をはじめ、欧州、米国を中心に高い評価をいただいている、当社の最上級スクーター「スカイウェイブ 650」を全面改良した「スカイウェイブ 650LX」を発売しました。凛々しさと上品さを表現した洗練されたスタイリングを採用し、エンジンと CVT 制御の改良により 32.0km/L の燃費を実現して環境性能を高めました。

60km/h 定地走行燃費（km/L）。国土交通省届出値。値は定められた試験条件のもとでの数値です。実際の走行は、この条件（気象・道路・車両・運転・整備などの状況）が異なってくるため、それに応じて燃費が異なります。

(1月)「スイフト」が世界累計販売 300 万台を達成

小型乗用車「スイフト」が、2004年の発売開始から8年2カ月で世界累計販売300万台を達成しました。2004年11月より日本、ハンガリー、インド、中国を中心に生産し、2012年3月からはタイにおいても生産・販売を開始しました。現在では主要生産国をはじめ、世界120以上の国と地域のお客様にご愛顧いただいています。

なお、世界累計販売300万台のうち約13%が日本、約45%がインド、約23%が欧州で販売されました。

(2月) ミャンマーに100%出資子会社を設立

2010年より休止していたミャンマーの四輪車生産の再開をめざし、ミャンマー政府の認可を受け、100%出資の新会社スズキ・ミャンマー・モーター社を設立しました。

スズキ・ミャンマー・モーター社は、旧ミャンマー・スズキ・モーター社が四輪車生産を行っていたヤンゴン市内の既存工場で小型トラック「キャリイ」の生産を行い、人材育成を進めながら、経済の自由化とともにインフラの整備が進むミャンマーで、今後四輪車の生産販売を拡大していく計画です。

(2月) ガソリン車 No.1¹ の低燃費 33.0km/L² (2WD車) 軽乗用車「アルト エコ」を発表

軽乗用車「アルト エコ」に、スズキの次世代環境技術「スズキグリーン テクノロジー」を採用し、2WD車で 33.0km/L²、新たに設定した4WD車は30.4km/L²を達成。ガソリン車 No.1¹の低燃費を実現しました。

「エネチャージ」³、「新アイドリングストップシステム」の採用に加え、車両重量の軽量化、パワートレインの高効率化、走行抵抗を低減する技術を投入しました。低燃費にさらに磨きをかけて全機種がエコカー減税³の免税対象車となりました。

- 1 JC08モード走行燃費(国土交通省審査値)に基づく。ハイブリッド車を除く。2013年6月現在、スズキ調べ。
- 2 燃料消費率 JC08モード走行(国土交通省審査値)
- 3 環境対応車普及促進税制(エコカー減税)による自動車取得税の減税措置、自動車重量税の減税措置

(2月) 広くて便利な低燃費の軽ハイトワゴン、新型軽乗用車「スペーシア」を発表

クラストップ¹の室内長の大きな空間、女性の視点を取り入れた使いやすさ、運転のしやすさを考えた機能と装備、クラストップ¹の低燃費29.0km/L²と軽快な走りを実現した新型「スペーシア」を発表しました。

燃費や走行性能に貢献する軽量化に取り組み、全機種がエコカー減税³の免税対象車となりました。女性ドライバーを中心に拡大している軽ハイトワゴン市場で拡販してまいります。

- 1 クラス = 全高 1,700mm 以上のハイト型 2BOX 軽自動車。2013 年 7 月現在、スズキ調べ。
- 2 燃料消費率 JC08 モード走行 (国土交通省審査値)(G、X 2WD 車)
- 3 環境対応車普及促進税制 (エコカー減税) による自動車取得税の減税措置、自動車重量税の減税措置

(3月)「スズキ環境計画 2015」を発表。「スズキ生物多様性ガイドライン」を策定

美しい地球と豊かな社会を次の世代に引継いでいくために、2012 年度から 2015 年度までの環境保全の取組み「スズキ環境計画 2015」を、また事業活動等において「生物多様性」の保全と持続可能な利用に取り組む指針として「スズキ生物多様性ガイドライン」それぞれ策定しました。

(3月)四輪車の世界累計販売台数 5,000 万台を達成

1955 年 10 月に軽自動車「スズライト」を発売して以来、2013 年 3 月までに国内で累計 2,195 万台 (軽自動車 = 2,028 万台、登録車 = 166 万台)、海外で累計 2,805 万台の四輪車を販売し、世界累計販売台数で 5,000 万台を達成しました。今日では、日本をはじめインド、ハンガリー、インドネシアなど海外 12 カ国に 13 の四輪車生産拠点を展開し、スズキの四輪車は世界 181 の国と地域でご愛用いただいています。当社は、今後もクルマの様々な性能をさらに改善してだけでなく、世界中のお客様の立場に立ったものづくりで、価値ある商品をご提供いたします。